

# 第92回富山眼科集談会

-ハイブリッド開催- (現地+Web)

日時 令和 7年 11月30日(日) 13:30~16:35

場所 富山県民会館 6F 611号室

〒930-0006 富山市新総曲輪 4番 18号 Tel:076-432-3111

(連絡先) 富山眼科集談会事務局 富山大学医学部眼科学教室

〒930-0194 富山市杉谷 2630 Tel:076-434-7363 Fax:076-434-5037

E-Mail: ophthal@med.u-toyama.ac.jp

1. 一般講演(発表7分、討論5分)です。
2. 現地参加を原則といたしますが、ライブ(ハイブリッド)での参加することも可能です。
3. **【Web参加者について】**  
ご自宅等で Web で参加する場合は、Zoom(オンライン)を使用しての参加となります。Zoom参加される方は、事前に下記 QRコード・URLより参加申し込みをお願いいたします。  
申込 URL <https://forms.gle/RBmCHys21ALDzQkg8>  
Zoom 申込期間は、開始:11/18(火)~終了:11/25(火)17:00 までです。  
当日 Web 接続の状況が良くない場合もあります。ご了承ください。
4. **【Web 申込必要事項】**  
①氏名、②フリガナ、③所属、④専門医番号(会員 ID6 桁)をご記入ください。  
申込期間終了後に Web (Zoom) 申込者には、ID、パスワードをメール送信いたします。
5. **【会場費について】**全て、振込みとさせていただきますのでご了承ください。  
会場参加者は、振込先は当日会場にてご案内いたします。Web 参加者は、ID、パスワード等のメール送信の際に振込情報をご案内いたします。  
参加費は 3,000 円です。(会員は無料です)
6. 本会は日本眼科学会専門医制度生涯教育事業(No.59056)です。
7. **【取得単位】会場参加者は 1 単位、Web 参加者は 0.5 単位を取得できます。**  
Web 参加者は、視聴の確認が取れた場合に単位を付与されます。(短時間の視聴の場合は認められませんのでご了承ください)
8. 本会は日本医師会生涯教育制度における 1 単位(36)カリキュラムコードを取得することができます。
9. 今回から「眼科臨床紀要」に一般講演は、演題・演者のみ掲載いたします。



ご自分のパソコンを持ってきて頂くと、自分の手元のパソコンで発表スライドを Zoom で見れます。(音声、マイクは off にして下さい)

次回の第 93 回富山眼科集談会は令和 8 年 5 月 31 日(日) 富山県民会館の予定です。

主催 富山眼科集談会

## 一般講演

13:30 ~ 14:06 (座長) <sup>みやこしあきお</sup>宮腰晃央 (富山大)

---

1. 石垣島小児の4年間での屈折変化と眼軸長・水晶体屈折力の関係

<sup>はつきかなつこ</sup>初坂奈津子、生駒 透、佐々木優、武田 峻、鵜飼祐輝、清田優希也、  
伏江眞奈、水戸 毅、久保江理、佐々木洋(金沢医大)

2. マントル細胞リンパ腫寛解期に発症した視神経症に対しイブルチニブが著効した一例

<sup>たかしんいちろう</sup>瀧真一郎<sup>1</sup>、上嶋仁美<sup>1</sup>、山田芳博<sup>1</sup>、藤平琢磨<sup>2</sup>、寺崎 靖<sup>2</sup>  
<sup>1</sup> 富山市民病院眼科 <sup>2</sup> 富山市民病院血液内科

3. 広義原発開放隅角緑内障(POAG)眼の仰臥位と座位での眼圧差とそれに関する因子について

<sup>みのつよし</sup>美濃剛志、宇多川さち子、山下陽子、東田朋巳(金沢大)

14:06 ~ 14:30 (座長) <sup>まるやまかずいち</sup>丸山和一 (富山大)

---

4. 進行性円錐角膜に対する角膜クロスリンキングの術後1年成績

<sup>みやこしあきお</sup>宮腰晃央<sup>1</sup>、石田 学<sup>2</sup>、石田誠夫<sup>2</sup>、林 篤志<sup>1</sup>  
<sup>1</sup> 富山大 <sup>2</sup> 石田眼科医院

5. 眼内レンズを部分脱臼させ生検網膜を経前房的に摘出した2例

<sup>うえたよしき</sup>植田芳樹、渡辺裕士、田中伸弥、但馬悠介、田中 杏、橋本義弘(真生会富山病院)

14:30 ~ 15:06 (座長) <sup>ゆのきたつや</sup> 柚木達也 (富山大)

---

6. 眼サルコイドーシスにおける術後視力予後関連因子の検討

<sup>まるやまかずいち</sup>  
丸山和一<sup>1,2</sup>、上江田基宏<sup>2</sup>、藤本聡子<sup>2</sup>、春藤卓也<sup>2</sup>、白木暢彦<sup>2</sup>、中村友子<sup>1</sup>、  
西田幸二<sup>2</sup>、林 篤志<sup>1</sup>  
1 富山大 2 大阪大

7. En face OCT による内境界膜裂孔の診断と発生に関する考察

<sup>かとう つよし</sup>  
加藤 剛<sup>1</sup>、高橋翔吾<sup>1</sup>、山崎仁史<sup>1</sup>、柳沢秀一郎<sup>1</sup>、赤井亮太<sup>2</sup>  
1 高岡市民病院 2 富山大

8. 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術の有効性に関する多施設評価

<sup>たぐちゆうた</sup>  
田口優太、山田雄貴、高村佳弘、稲谷 大(福井大学)  
J-CREST group

15:06 ~ 15:35 休憩

**特別講演**

15:35 ~ 16:35 (座長) <sup>はやし あつし</sup> 林 篤志 (富山大)

---

【会場でのご講演】

『緑内障難症例とその対策:よりよい視機能維持のために』

<sup>ひがしで ともみ</sup>  
東出 朋巳 先生

(金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 教授)

特別講演 「緑内障難症例とその対策:よりよい視機能維持のために」

金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 教授 東出 朋巳 先生

抄録:緑内障は年々増加傾向にあり、2030年には世界の患者数が約1億人となると予想されています。日本でも成人中途失明原因として緑内障は増加の一途であり、最近の調査では全体の4割を占めています。疫学調査では広義原発開放隅角緑内障が最も多いですが、高眼圧を呈する緑内障である原発閉塞隅角緑内障、落屑緑内障やぶどう膜炎に続発する緑内障などは視機能悪化のリスクが高い病型です。緑内障治療のゴールは生涯にわたる良好な視機能の維持です。近年、緑内障点眼薬の選択肢が増え、新しい手術法がいくつか保険適用となり、眼圧コントロールのための戦略の幅が広がりました。しかし、次々と難症例が紹介されてきます。緑内障による失明を減らすには、緑内障の啓発、検診などによる早期発見、病診連携、患者指導・支援を含めた総合的な取り組みが必要です。これまでに経験した難症例を呈示し問題点や対策を考えてみたいと思います。

略歴:

1990年 金沢大学医学部 卒業

1992年 マイアミ大学 バスコムパルマー眼研究所 研究員

1996年 金沢大学医学部附属病院眼科 助手

2006年 金沢大学医学部附属病院眼科 講師

2010年 金沢大学医学部附属病院眼科 病院臨床教授

2022年 金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 准教授

2025年 金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 教授